

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (教育学)	氏名	王 路曦
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
中国における保育者のメンタルヘルスに関する研究 ーレジリエンスとコーピングに着目してー			
論文審査担当者			
主 査	教 授	七木田敦	
審査委員	教 授	河野和清	
審査委員	教 授	深澤広明	
審査委員	准教授	中坪史典	
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、ストレス対応力であるレジリエンスと対応方法であるコーピングに着目して、外部環境要因の影響も含め、中国における保育者のメンタルヘルスに影響を与える外部と内部の要因を検討した。その結果を踏まえ、現在の中国における保育者のメンタルヘルスの改善策を考察した。</p> <p>論文の概要は以下のとおりである。</p> <p>第1章では、保育者のメンタルヘルスに関する先行研究を概観し、研究背景、研究目的と方法を述べた。近年、保育者のメンタルヘルスの悪化に対して、中国政府は対策を講じ、保育者の待遇の改善、職場環境などの整備を行ったにもかかわらず、保育者のメンタルヘルスは未だ改善されていない状況にある。その理由に関して、外部環境の影響だけではなく、保育者自身の対応も検討する必要があると考え、本論文では、レジリエンスとコーピングの両者に着目して、中国における保育者のメンタルヘルスを良好に形成・維持するための方法や手段を検討するとともに、改善策を探ることを目的とした。研究の方法は、質問紙調査を行い、外部環境からのストレス、保育者のレジリエンス、保育者のコーピング、保育者のメンタルヘルスの状況のそれぞれを明らかにし、保育者のメンタルヘルスとそれに影響を与える外部環境、保育者自身の対応の関連性を明らかにした。</p> <p>第2章では、保育者のストレス環境とメンタルヘルスの実態を明らかにし、その特徴と関連性を提示した。その結果、保育の経験年数別にみると、ベテラン保育者のメンタルヘルス重篤度は新人、中堅保育者より高く、ストレス反応得点に関しても、他の保育者より高かった。特に、職務自体のストレスである「役割の曖昧な職務負担」と職場環境ストレスである「同僚との関係」の得点が高かった。また、学歴別にみると、本科卒保育者のメンタルヘルス不調群の割合は中等卒、専科卒保育者より高く、ストレス反応得点に関しても、他の保育者より高かった。特に、職務自体のストレスである「役割の曖昧な職務負担」と職場環境ストレスである「同僚との関係」の得点が高いことが示された。さらに、各ストレスとメンタルヘルスの関連性については、職場環境、職務環境、個人環境からのストレスが保育者の心理的症状、身体的症状、生活関係などのいずれにも影響を与えることを明らかにし、「役割の曖昧な職務負担」などの職務環境が特に影響していることが明らかになった。</p>			

第3章では、保育者のレジリエンスの実態を明らかにし、その特徴を考察した。その結果、中国の保育者はレジリエンスの能力を有しているものの、経験年数の増加により、レジリエンスが拡大していないことが示された。そのため、これまで高いと考えられていたベテラン保育者のレジリエンスは必ずしも高いとは言えず、今後はこのことを踏まえてベテラン保育者への支援や研修のあり方を考える必要があると考察した。また、学歴別にみた結果、中国の保育者は学歴の向上に伴い、自己効力感が増加していないことから、実際の保育現場での問題対処の難しさや保育への自己効力感の欠如が問題であると考察した。

第4章では、保育者のコーピングの実態を明らかにし、その特徴を考察した。その結果、8つの対処型のうち、保育者全体では社会的支援模索型と逃避型のみ保有していた。ゆえに、中国の保育者は経験年数の蓄積や学歴の向上により、多数の対処型を獲得しておらず、特定の対処方法でストレスへの対応をしていることが推察される。保育現場で生じた問題に対しては、特定の対処方法で解決できることもあるが、新しい保育ニーズが発生した際には、対応が困難なことを踏まえると、専門的知識や技能の研修、多様な保育ニーズや保育場を体験させ、保育者が多様なコーピング型を獲得することが必要であると考察した。

第5章では、各章の結果を総合し、中国における保育者のメンタルヘルスに影響を与える要因について仮説モデルを検証し、保育者のメンタルヘルスと外部や内部の要因との因果関係を明らかにした。その結果、仮説が支持され、外部環境のストレスの増加はメンタルヘルスの重篤度やレジリエンスとコーピングの使用を増加させる一方で、レジリエンスとコーピングの使用はメンタルヘルスの重篤度を軽減させることが示された。

第6章では、本研究で見出した成果を総括するとともに、研究の限界性と展望を述べた。

本論文の意義は、次の3点に見出される。

(1) 中国において、従来保育者のメンタルヘルスに影響を与える要因は外部環境からのストレスに限定して検討されていたが、本論文においては、その要因をレジリエンスとコーピングに拡大し、メンタルヘルスの形成モデルを検証したことにより、保育者のメンタルヘルス改善に新たな知見を加えた。

(2) 保育者のメンタルヘルスの状況及び、影響を与える外部環境ストレス、保育者のレジリエンスとコーピングのそれぞれの特徴をまとめ、具体的な改善策を導くことにより、保育者のメンタルヘルスの改善ならびに保育の質の向上に寄与した。

(3) 保育の経験年数と学歴の2側面からの分析により、それぞれの保育者の状況に即したメンタルヘルス改善策を見出した点が評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成 28年2月12日